

保育の質向上！

それは園内研修の充実によってもたらされること！

園児の活動の映像を活かせ！映像に見える子ども像に気づく！

① 一日の保育をふりかえる全教員出席のミーティングを持つ

願うもの：園児像にある「元気をもらえる子ども」に明日会いたい！

② 保護者に感動をもたらすような「園生活報告」《子育てリビング》を持つ

願うもの：園教育を共有してもらい、楽しい子育てへの目覚めになってほしい！

テーマ 園内研修をいかに深めるか＜考察＞

毎日の保育をふりかえる全保育者のミーティング《園内研修》を持つことで、「幼児観」＜子どもの見方と、求むべき子どもの姿＞が全職員の中に形成されていくことが実感される。

「幼児観」というイメージの共有は、勤務の目標でもある。

「幼児観」という向かう光源が定まることで、保育の定量（教材研究や環境づくり）が決まってくる。

そこへ向かうことで勤務者の役割分担が明確になり、職場モラル（やる気と職員間助け合い）も向上する。

「幼児観」：こんな子どもを見たい！すなわち本園の子ども像は「子どもらしい」である。「子どもらしい」は保育者各人の中にありそのイメージの違いはあろうとも、子ども理解を通し、「子どもらしい」への霧がとれてくる。霧のとれたクリアで生き生きした子どもが見たいという気持が「子どもらしい」というその子ども像を描かせる。その子ども像にこがれるのは、そんな子どもにこそ私どもが元気をもらえるからだ。その「子どもの役割」を園が保育で発信できるなら「子ども」の存在役立ちが社会の中で大きく評価され（子どもがまん中の世が実現）、世ははじめて未来を真に語り始めることができるはずだ。

霧のかかっている子ども、すなわち「メルヘンに生きる子ども」が私の園にいて、「こういうすばらしい子ども世界があるのだ」を保育で社会へ見せることこそが幼稚園の役割である・・・と本園は考える。幼稚園の使命がここにあり、それを保育者自身が感じとれることが毎日の保育に向かう意欲・原点となる。そうやって保育の大切さ・子育ての楽しさや喜びが社会浸透化することで、親が子どもにしてやれることにやりがいをもって向き合おうとすることにつながる。

「子どもハッピーなら、世はピースだ」とは、なんて気持ち良いことか！しかし現実の世はそれと対極の気持ちに沈んでいる（子どものやり場に苦労している：質のことを問わない子ども収容施設数の話ばかり）。

保育の質が上がり、親が子育てに希望を持てるようになることは、幼稚園が受け持つ大きな使命である。保育者があつく求めるその幼児像をクリアにする磨きが、**毎日の保育のふりかえり《園内研修》なのだ。**それが、わが園で毎日一時間かけて行う**終礼**である。

小郡幼稚園生活 素の映像 活かす

**【園内研修】**

子育てリビング

園だより

卒園冊子

**【社会発信】**

◇園案内パンフレット

◇フェイスブック

◇ケーブルテレビ